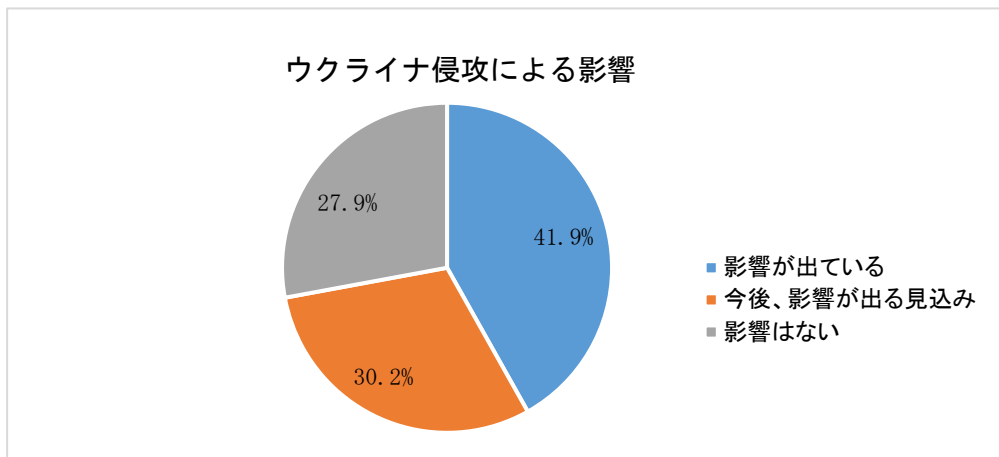


## ロシアのウクライナ侵攻による企業活動への影響調査

調査対象：県内企業 534社      調査方法（期間）：アンケート方式（4月18日～5月30日）  
 回答企業：177社（回答率 33.1%）      業種別内訳：製造業 102社   非製造業 75社

- 埼玉県内企業に対して、ロシアのウクライナ侵攻による事業活動への影響について尋ねたところ、全産業では「影響が出ている」（41.9%）、「今後、影響が出る見込み」（30.2%）であり、合計すると72.1%の先が何らかの影響を懸念している。
- 製造業・非製造業別にみると、製造業では、72.9%、非製造業では69.9%となっている。また、企業規模別にみると、規模の小さい企業では68.8%、規模の大きい企業では75.0%となっており、規模の大きい企業のほうが影響を懸念している。



単位：%

	影響がある			影響はない
		影響が出ている	今後影響が出る見込み	
全産業	72.1	41.9	30.2	27.9
製造業	72.9	39.6	33.3	27.1
非製造業	69.9	46.6	23.3	30.1
規模の小さい企業	68.8	37.6	31.2	31.2
規模の大きい企業	75.0	48.7	26.3	25.0

- 具体的な影響についてみると、①原材料の入手困難化、②エネルギー、原材料・仕入価格の高騰およびその波及効果、③直接的な売上の減少、を挙げる先が多い。  
 また、侵攻の長期化や経済制裁の種類・対象範囲の拡大に伴う影響を懸念する声も見られた。

- 上記の企業の事業活動とは別に、ロシアのウクライナ侵攻は“21世紀にヨーロッパにおいて軍事侵攻が行われた”という点において、マインド面へのマイナスの影響は大きい。世の中全体のマインド面の悪化が経済の先行き不安を助長し、ひいてはこれが景気後退、自社の業績悪化といった“ショックによる経済の落ち込み”につながると懸念する声も少なからずみられる。
  
- 主なコメントは以下のとおり。
  - ・ 原材料の入手困難化
    - 「ロシア産の木材、カラ松の単板、チップといった住宅資材の入荷が年内は見込めない」  
(金属製品)
    - 「羽毛原材料の不足」(繊維)
    - 「商社経由で銅ボール・シアン化金・各種加工の為の薬品を仕入れているが、どの項目とも値上がりが激しいのみならず入手がやや困難になりつつある。」(その他製造)
  
  - ・ エネルギー、原材料・仕入価格の高騰およびその波及効果
    - 「各種原材料が高騰、入手困難になっている」(紙・パルプ)
    - 「原油、天然ガス等が上がると、仕入価格、配送にかかる軽油代、営業のガソリン代、保護シート代等全てにおいて値が上がり、販管費が上がる。」(金属製品)
    - 「光熱費(特にLPガス)の高騰」(食料品)
  
  - ・ 売上の減少、活動の縮小
    - 「ロシアへの輸出が止った」(一般機械器具)
    - 「欧州向け輸出に懸念」(輸送用機械)
    - 「ロシア向けの商品が若干あることと、東欧をはじめとしたヨーロッパの経済に悪影響が予想される」(その他製造)
  
  - ・ 景気悪化により業績悪化を懸念など
    - 「今以上に経済が悪化すると、投資計画の凍結や延期がおこるため、販売が厳しくなってくる」(自動車販売)
    - 「ロシアのウクライナ侵攻により景気は不透明であり、物流にも大きな影響がでてくる。当社メイン取引先は店舗の削減などを計画しており、売上は大幅に減少する」(運輸・倉庫)

以 上